



2019年度日本語スピーチコンテスト 一般の部優勝者

Chng Kaiqing Mavisさん
「技術の時代における言語学習の価値」

一般の部 2位
Lim Wee Siangさん
「猫年」

言語の勉強には終わりが無いと感じました。
言語は最初の橋を築きますが、どう深めるかは心次第です。(Chngさん)

日本語を使いこなせるようになれば、相手のプライバシーを尊重できるようになります。
尊重できれば、出会いが広がり絆も強めていくという効果が期待できます。(Limさん)

2019年度 日本語スピーチコンテスト入賞されたChng Kaiqing Mavisさんと Lim Wee Siangさん。
ずっと興味をもって学習を積んでこられた日本語や日本文化についてお話を伺いました。

聞き手

日本人学校小学部チャンギ校 黒田美也子教諭
日本人学校小学部チャンギ校 原田渚未教諭

—なぜ、日本語スピーチコンテストに出ようと思ったのですか。

Chngさん: 6か月間日本語学校に通い、その後10年間独学で日本語学習をしてきました。仕事でも日常でも日本語を使う機会がなかったので、スピーチコンテストに出場し自分の能力を知りたかったのです。

Limさん: 1年前の自分ならスピーチコンテストに出る勇気はなかったでしょう。2年間の日本語授業を修了し、日本語学習者として最終点に辿り着いたと思いました。自らの平凡な人生をどうやって潤すかを考えた時、スピーチコンテストに参加すれば、出会いも広がるし、日本人との絆も強めることができると考えました。たとえ入賞できなくても貴い経験が得られるので、スピーチコンテストは参加に値すると思いました。

—日本語に興味をもったのは、なぜですか。

Chngさん: アイドルグループ嵐の曲を聴くようになり、メロディが明



(左から)原田渚未教諭、Chng Kaiqing Mavisさん、
Lim Wee Siangさん、黒田美也子教諭

るくて歌詞を調べるともっと深くせつなく、感動したことがきっかけになりました。歌詞とメロディを同時に聴いてみたかったので勉強を始め、ドラマやバラエティ番組も好きになり、日本語の世界にどんどん引き込まれていきました。初めて買った日本語の雑誌は、2008年5月号のアイドル誌です。わからない単語を辞書で調べましたが、助詞の存在を知らず、どれが一つの単語になっているかわかりませんでした。一つの段落を読むのに1時間かかって写真を見ただけだったのが悔しくて、絶対にわかるようになると決心しました。大会前にも嵐の曲を聴いて勇気をもらいました。

Limさん: 最初は、日本に旅行へ行ったのがきっかけで景色の美しさと料理の美味しさに心を惹かれました。その上、季節の移り変わりを伴って料理や景色が変化するので、同じ場所でも季節が違えば体験を新たに味わうことができます。さらに日本語には同音異義が多く、謎掛け、川柳、おやじギャグといった言葉の洒落が流行っていることに私は魅せられました。一つの言葉に定義がいくつかあり、慣用的に使われることがあるのでとても興味深く感じました。

—日本の文化や言葉をどのように学びましたか。

Chngさん: 日本語学校で授業を受けた後、ドラマやバラエティ番組を見て、たくさんの単語を身に付けましたが、4年前に伸び悩みを感じ、言語学習アプリを使い始めました。日本の地元のひとと友達になって、日本語や英語で話したりお互い違う言語を使うようにしたりして、日本語を使う機会を増やそうとしてきました。初めは日本語で話すのが怖かったけど、だんだん怖くなくなり、勇気をもらうようになりました。日本語を使う機会があると、それを逃さないように心掛け、シンガポールでも日本人の料理人さんや美容師さんと日本語で話すようになりました。



Chngさん

Limさん

Limさん:文化と言葉の学び方は少し違うので、一つずつ説明させていただきます。言葉は、日本語学校に通っていた頃、教科書や参考書を貪り読んでいました。しかし、卒業後、この学び方は間違っていると目覚めました。教科書で学んだのは一つ一つの単語や文法の意味であって、それを言葉に紡いでもどことなく違和感を覚えて不自然だったのです。ネイティブ向けの書物や番組を見たり、日本人ともよく交流したりして、決まった形の言い回しを記憶に焼き付けることが重要です。外国人学習者向けの教科書や参考書に頼りすぎないで自然な日本語によく接することが肝心です。

文化についてもインターネットやマスメディアからいろんな情報が入り便利ですが、外国人のための情報よりネイティブ対象の書物や番組からの情報がお勧めです。日本人の友達ができて、本人から日本文化のことを聞かせていただくことは、マスメディアからの情報に勝るでしょう。

ースピーチコンテストに出場するにあたり、どのようにして練習しましたか。

Chngさん:長い時間勉強し、ドラマやバラエティ番組を見て真似しようとしました。実際にチューターさん(最終選考にあたって日本人会がつけてくれる)に会うと、イントネーションなどたくさん直すところがありました。とりわけ印象に残った言葉は、「語学学校」のイントネーションでした。「語学」のイントネーションと「学校」のイントネーションを別々に言う時と結び付けた時とは異なるので、それを覚えることが難しく、そんな時は、中国語の四声の記号を当てはめて何回も言って強い印象が残るようにしました。そういうことがたくさんあり、言語の勉強には終わりが無いと感じました。スピーチコンテストをきっかけとして、日本語レベルを一段と上げたいと思いました。

Limさん:イントネーションや決まった言い回しは、ネイティブでないとわからないので、自然な日本語を聞いたり見たり読んだりした時に、自分の脳に言葉を残すようにします。辞書で例文をたくさん読んで、同じ言葉を日本人ネイティブと話す時に使うチャンスがあれば、その言葉を自然に使えるようになります。片仮名の言葉の発音とイントネーションが難しいので、何度も音読して記憶に焼き付けます。

実は日本語学者が発音とイントネーションのルールについて研究していて、YouTubeでも調べることができます。ルールをよく勉強して、一つ一つの言葉にイントネーションのマークを付けます。例えば、「ありがとう」は、[り]で言葉の高さが上がります。彼女が言ったように漢字を合わせた言葉のイントネーションは変わります。これもルールがあります。

ーChngさん、「人間関係を築く上で、言語学習にかけがえのない価値がある」という趣旨のスピーチだったと思いますが、人間関係を築くために最も重要なことは何だと思えますか。

Chngさん:人間関係にはいろんな要素がありますが、一つは意志を伝え合う力、つまりコミュニケーション力です。それに対して共通の言語があれば即、役に立ちますが、私にとって必要なのは真心だと思います。私の経験だと、同じ言語を話している人でも、はじめはいい感じでも知れば知るほど、距離を置いてしまう場合もあります。それに対して第一印象がよくなくてもその人をよく理解しようとすれば、その人のいいところが発見できる時もあります。真心を込めて接することが一番大事だと思います。そうすれば、相手がちゃんと受け止めてくれると思います。

もちろん言語はサポートしています。言語は最初の橋を築きますが、どう深めるかは心次第です。



Chngさんのスピーチコンテストでの様子



授賞式での様子



Limさんのスピーチコンテストでの様子



授賞式での様子

—Limさん、スピーチの中で「相手のプライバシーを尊重できていますか」という問いかけがありましたが、プライバシーを尊重するためにできることは、どんなことだと思いますか。

Limさん: プライバシーに踏み込むような質問を避けることです。年齢や職業、住まい、電話番号など個人情報を初対面の人に問いつめるのは、禁物です。とはいえ日本語は文脈性の高い言語なので、相手の話の内容からその人のことを察することが重要です。例えば、年齢について質問するのではなく、大学の話をすれば大学生だから、20代かなとか、子どもの話をすれば、結婚していることがわかります。よく利用しているショッピングモールの話からこの地域に住んでいるかもしれないと察することができます。日本語を使いこなせるようになれば、相手のプライバシーを尊重できるようになります。尊重できれば、出会いが広がり、絆も強めていくという効果が期待できます。

—日本語で好きな言葉や好きな文章はありますか。

Chngさん: 好きな言葉は、「いただきます ごちそうさま おつかれさま」です。「いただきます」は、大自然に対して、食べ物を恵まれた恩に感謝を表す表現、「ごちそうさま」は、料理をしてくれた人に感謝を表す表現、「おつかれさま」は、周りの人や一緒に働いている人に感謝を表す表現です。すべて感謝の気持ちを込めた言葉だから、日本人は受けた恵みに感謝をしてきちんと言い出す美德があると感じました。日本語の勉強をしてから、私はきちんと感謝を言い表すように心掛けています。英語も感謝はしていますが、感謝の表現があまりないので、あまり言わないから当たり前のものだと考えてしまいます。お礼を言うと、相手に感謝の気持ちを伝えるので美しい世界になるんじゃないかなと思うようになりました。言い出すことによって脳にフィードバックすることになるので、感謝の気持ちを覚えていることができます。

Limさん: 好きな表現は二つあります。「備えあれば憂いなし」、万事に準備をすれば結果を心配することはないという意味です。受験勉強やスピーチコンテストに当てはまります。泥縄式の準備は失敗の道へ導くので、事前に十分な準備が大事です。スピーチコンテスト原稿提出締め切り日の2か月前にテーマ選び、起稿、添削、音読の練習、暗記、という順を経て準備を始めました。

「やるかやらぬかだ。試しなど要らん」スターウォーズのマスターヨーダの名言“Do or not do, there is no try.”です。「試し」の言葉の裏には「できない」とか「失敗」という先入観や弱腰な気持ちがあるので、戦いなどに行く前に弱腰な己を負かすということです。一度やろうと決めたら力を惜しまずに最後までやり遂げなければならない、という意味です。「成功、失敗に関わらず、出るからには迷わずに全身をスピーチコンテストに捧げてください」と将来の参加者に呼び掛けたいです。日本語の勉強を始めて学んだことが難しくなっていくと、諦めることが多いです。始めたら最後までやり続けなければなりません。

—子どもの頃はどんな子どもでしたか。

Chngさん: 子どもの頃はやんちゃで、頑張り屋ではありませんでした。算数は好きだったけど、長い問題を解くのは面倒だと思っていました。わからない算数問題には答えを書かずに、初めからやらないようにしていました。しかし、学校で友達がたくさんできて一緒に勉強する楽しさを味わってから、私も頑張ろうと思うようになりました。今は逆に完璧主義になってよくないと思います。

黒田: きっかけがあれば、変わる自分があるということですね。

Chngさん: 子どもの頃は一番影響を受けやすい大事な時期ですね。

Limさん: 子どもの頃は、物静かだったです。学校の好きな科目は



インタビューの様子

算数と科学でした。言語はあまり好きではありませんでした。英語と中国語はあまり勉強しませんでした。長い文章を読んだり書いたりするのが嫌でした。中学と高校まで科学と算数に力を注ぎました。大学も専攻は化学で、実験室に長く居過ぎて飽きてしまいました。

旅行に行くのがきっかけで日本語が好きになりました。学んだ日本語を自分の専門の化学に使えたらいいと思います。今は仕事に役立つ日本語を学んでいます。

Chngさん: Limさんのお話を聞いていて気付いたことですが、私は子どもの頃から言語が好きでした。5歳頃テレビ番組を見ていた時広東語で話していましたが、ある日突然広東語が分かるようになりました。中国語と広東語の文法は同じですが、発音が違います。語学が好きでした。

Limさん: 日本語を聞き流していると、分かるようになってきます。物心がついていない子どもの時は、外の情報を吸収しやすいです。大人になったら、新しいことを学ぶことが難しくなります。発音の直しがなかなか難しいです。

黒田: 小さい間は、スポンジのように吸収するのですね。大人になると努力が必要なのですね。その努力をして今回のスピーチコンテストに見事入賞されて、立派だと思いました。言葉を一言ずつ吸収し自分のものして、学んできたことを何かで生かしていきたいという前向きな姿勢でチャレンジされたことがよくわかりました。今日は、本当にありがとうございました。いいものが書けるか私もチャレンジしたいと思います。

Chngさん、Limさん ありがとうございました。

インタビュー後談

はじめにお二人がとても丁寧な言葉を使われており、選ぶ言葉が、お人柄を表すことを改めて感じました。自分が発する言葉に対してもっと責任をもちたいと思うようになりました。

次に、生きた日本語を話すためには、教科書から飛び出して使うことだということがお二人に共通していると思いました。町で出会う人に積極的に話しかけたり、使える場面を見つけて話す機会を増やしたりすると、外国語が更に上達するのではないかなと思いました。

最後に、「自分に対するセルフイメージを限定することなく、夢をもち続けて努力していけば、必ず夢が実現する」というメッセージを感じました。たくさんの学びを得られたインタビューになりました。ありがとうございました。

文責: 広報部編集委員 黒田美也子教諭

写真: 日本人会、原田渚未教諭